

6) 血圧・喫煙・脂質異常症

(2) 高血圧の有無と年齢・性別、原疾患、透析歴 (図表57)



集計対象：透析患者全体

解説

高血圧ありを、①収縮期血圧140mmHg以上、②拡張期血圧90mmHg以上、③降圧薬使用ありのいずれか一つを満たすことと定義して、集計された個々の情報から高血圧ありを判定し、関連する要因を検討した。男性では15歳未満と90歳以上の年齢層で高血圧ありの割合が比較的少なく、その間の年齢層では高血圧ありの割合が多かった。一方女性では全体的に高血圧ありの割合は各年齢層で男性より低く、30歳未満、90歳以上で高血圧ありの割合は比較的少なかった。なお、データ不備などで高血圧あり・なしを判定できない症例が男性の18.0%、女性の19.1%にあった。

原疾患別にみると、高血圧ありと判定できる患者の割合は、腎硬化症で73.8%、糖尿病性腎症で77.5%、慢性糸球体腎炎では69.9%であった。高血圧ありと糖尿病性腎症の関連が強いことが示される。

透析歴別にみると、透析歴15年未満では高血圧ありと判定される患者の割合は72.8～74.9%であったが、より透析歴の長い患者では高血圧ありの割合が減少し、高血圧なしの割合が増加する傾向が認められた。長期透析と高血圧なしが関連する背景として、透析歴に伴い血圧が低下してくること、生存バイアスや原疾患の影響などが考えられる。